

令和7年度事業報告書

I. 法人の概要

名 称 学校法人 華陽学園

所 在 地 岐阜市太郎丸80番地

創 立 昭和40年2月（1965年2月）

目 的 教育基本法及び学校教育法に従い学校教育を行い、建学の精神「人らしく女らしく あなたらしく あなたならではの」を体し、幅広い教養と高度な専門能力を身につけ、社会に貢献できる前途有為な人材を育成することを目的とする。

設置する学校	岐阜女子大学	家 政 学 部	健 康 栄 養 学 科	80名
			生 活 科 学 科	40名
		文化創造学部	文 化 創 造 学 科	95名
	大 学 院	生活科学研究科		6名
		文化創造学研究科		13名
		文化創造学研究科 （通信教育課程）		37名

上記数字は、入学定員

学 生 数 781名 ※

教 員 数 77名 ※

職 員 数 35名 ※

※令和7年5月1日現在

役職員の概要 理 事 長 杉山博文

理 事 杉山博文 高口努 後藤忠彦 水谷邦照 田代久美子

池田直樹 杉山涼子 倉坪弘一 久保田智子

監 事 後藤真一 篠田たつゑ 春日井理恵

Ⅱ．事業の概要

1．ぎふ地域DX（デジタル・トランスフォーメーション）推進事業について

本事業は岐阜県の補助事業で、令和7年度事業規模は2,175万円、補助額は1,000万円である。

事業名を「AI 観光情報プラットフォーム構築事業」とし、下呂温泉の利便性と国際性を向上させるため、AI を活用した観光情報プラットフォームを構築する。多言語対応の音声システムを導入し、観光客が母国語で質問するとAI ガイドが音声で適切な情報を提供する。また観光客のデータ収集・分析、フィジカルなAI 機器との連携により、動線や混雑状況の把握を可能にする。AI 活用した観光客の行動データ収集・分析により、観光地運営や新サービス開発に貢献し、地域経済の活性化を図るものである。

本事業は、令和8年度以降も本学の新たな教育方向として進展を図り、社会貢献も目指すこととしている。

2．岐阜県私立大学地方創生推進事業について

本事業は岐阜県の補助事業で、令和7年度は事業名を「DXで実現するデジタル人材育成事業」として地域人材の育成事業を展開した。事業規模は498万円、補助額は498万円である。

本事業では、具体的にはリスキリング教育プログラムにおけるオンデマンドの学習環境の構築を目指し、プログラムとして、①AI 人材の養成(15講座)、②デジタルアーキビストの養成(15講座)、③学校DX戦略コーディネータの養成(15講座)を作成、それぞれe-Learning 講座を開講し、176名の受講者を得ることができた。本学は地域に貢献する大学を目指しており、令和8年度はデジタルアーカイブで地域共創のキャリアデザインの実現を目指す取組みを予定している。

3．「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム（リテラシーレベル）」の認定について

本事業は令和6年度からプログラムを開始し、令和7年8月26日に文部科学省「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度（リテラシーレベル）」に認定された。

世界ではデジタル化とグローバル化が進み、社会・産業の転換が大きく進んでおり、「数理・データサイエンス・AI」は、今後のデジタル社会の基礎知識（いわゆる「読み・書き・そろばん」的な素養）として捉えられ、日常の生活、仕事等の場で、これらを実際に道具として上手に活用することが出来ることが求められている。

情報科学やデータサイエンスの専門分野を志す学生の基礎教育としてではなく、全ての学生が今後の社会で活躍するために必要な分野として、継続して取組む予定である。

4．メタバースクラブの「輝け！日本の大学生選手権」優秀賞受賞について

岐阜女子大学メタバースクラブ「未来を映す鏡プロジェクト」チームが、令和7年12月6日(土)に横濱キーステーションにて開催された「輝け！日本の大学生選手権」において優秀賞を受賞した。

本大会は、全国の大学生が自らの研究・企画・活動を発表し、創造性や社会的意義を競い合う場として知られており、本クラブは、最新のデジタル技術を活用しながら、学生主体で地域社会に貢献する取り組みを発表。審査員からは「未来志向の挑戦」「学生の主体性と社会的インパクトの両立」が高く評価された。

今回の受賞をきっかけに、メタバースクラブはさらに活動の幅を広げ、全国の学生や地域社会との連携を強化していく予定である。

5. 教育活動について

(1) 各種コンクール等の開催について

特に高校生を対象として、各自が持っている技術についての評価と、さらに学習の意欲を高めるため、各専攻・コース等でコンクールを開催した。各コンクールでは、自分の生活を見直し、さらなる技術評価が図られる。生徒への働きかけ、指導等の向上、表現活動の向上、高い専門的技術・能力の向上、など多様な視点からの評価と学習意欲を高め、さらに技術・能力の向上を志す人を支援した。

開催された各コンクールは以下の通りである。

- ① 第24回全国書道展（担当：書道専修）
- ② わたしの住まいリフォーム・デザイン案コンテスト（担当：建築デザイン専攻）
 - ・「技術・デザイン」部門
 - ・「アイデア・デザイン」部門
- ③ 伝統文化裁縫コンテスト（担当：生活科学専攻）
 - ・「衣服作品」部門
 - ・「アイデア作品」部門
- ④ 高校生「朝ごはん」コンテンツ（担当：健康栄養学科）
- ⑤ メタバース作品コンクール（担当：アーカイブ専攻、初等教育学専攻）
 - ・「3Dモデリング」部門
 - ・「デジタル紙芝居」部門
 - ・「ドローン撮影」部門

(2) 岐阜女子大学全国書道展の開催について

本学の書道教育コースでは、書写・書道教育のできる幼・小・中・高等学校の教員養成を目指す。この取り組みを現代の青少年の将来に向けて、生活全般にわたる健全な育成はもちろん、書写・書道教育を通じて人格陶冶の一助に、また、書写・書道教育の発展と振興を目的に第24回岐阜女子大学全国書道展を企画し、令和7年11月に開催した。全国の高校生・中学生・小学生を中心に半紙作品を募集し、大賞・準大賞・書道展賞他各賞を授与するもので、応募数は18,781点にのぼる。

「第12回（令和7年度）日展」にて在学生1名が入選した。

(3) ミュージカル活動について

初等教育学専攻の学生は、保育者・教育者を目指しており、両者に不可欠なのは強い情熱・専門性・人間力である。その人間力を高めるために、農業研究活動とミュージカル活動の2つを核とした取り組みを行っている。ミュージカルは一般に公開している。

ミュージカル活動を通して、表現力・コミュニケーション力・協働力・対応力・創造力・思いやり・向上心・やりぬく力・実践力などが身につくと考えられる。

令和7年度は農業研究活動も同時並行で取組んできたため、実質2カ月半の短期間での取組みとなったが、令和8年度も継続実施予定である。

(4) 各務原市地方創生空き家リノベーション事業について

本学建築デザイン専攻では、地方創生に向け空き家問題を解消するために、移住・定住を促進させるために、モデル空き家を対象として、建築・インテリアを学ぶ女子大生の視点からリノベーション・デザインを提案するものである。

地方創生「空き家リノベーション事業」から派生した事業である。各務原市の市営住宅の1室をリノベーションし、若い世代が暮らしやすい住戸へ生まれ変わらせるため、本学建築デザイン専攻、各務原市、空き家DIY事業推進会議メンバーの3者連携DIY事業である。令和8年度も各務原市から継続協力の要請が来ている。また、包括協定を締結している山県市とは、政策として進める空き家を利活用した地域住民との交流事業を計画している。

なお、建築デザイン専攻の学生が「2級建築士」および「宅地建物取引士」にそれぞれ1名が合格した。

(5) 商品企画と素材を無駄にしない衣服製作プロジェクト活動について

生活科学専攻では、メーカーから寝具未使用の生地や服飾資材の提供を受けて「衣服製作プロジェクト」のデザイン、衣装製作に活用し、ファッションショーを実施する。

BISHU FES. ×TGC「新規デザイナー発掘プロジェクト」では本専攻の学生が入賞した。本プロジェクトは、尾州産地と将来有望なクリエイターの関係を構築し、将来ビジネスパートナーとして連携することをめざし開催されたファッションコンテストであり、東京ガールズコレクション(TGC)を企画/制作している株式会社W TOKYOとコラボレーションした企画である。デザイン画は292点の応募があり、最終審査に残ったのは21点で本学学生の作品は、優秀賞を受賞した。

6. 研究活動について

(1) 科学研究費補助金により行われたもの

①「歌舞伎役者の甲州亀屋座興行に関する調査・研究」

基盤研究(C) 文化創造学部准教授：木村 涼(代表者)

②「教育人権保障としての通信制高等学校の学校図書館：現状と課題」

基盤研究(C) 文化創造学部講師：木幡 智子(代表者)

③「伊勢古市における遊興空間の形成と展開」

基盤研究(C) 文化創造学部准教授：木村 涼(分担者)

(2) 地域食材を活かしたレシピ創作コラボレーション事業委託について

美濃市の公共施設「道の駅 美濃にわか茶屋」と本学がコラボレーションする中で、実践的な研究機会を確保し、食を通じた地域の活性化に取り組むもの。株式会社美濃にわか茶屋の委託事業である。

Ⅲ. 財務の概要

1. 学生納付金収入

令和7年度	学生数	781名（5月1日現在）	876,842千円
令和6年度	学生数	832名（5月1日現在）	939,783千円
令和5年度	学生数	909名（5月1日現在）	1,010,451千円

2. 寄付金収入

令和7年度		
(1) 一般寄付金		11,262千円
(2) 特別寄付金		
沖縄基金		100千円
杉の実会（父母の会）		4,551千円
岐阜女子大学同窓会ほか		2,670千円
(3) 現物寄付金		
図書他		412千円
合計		18,996千円
令和6年度		10,063千円
令和5年度		20,289千円

3. 補助金収入

令和7年度		
(1) 国庫補助金		
私立大学経常費補助金他		212,502千円
(2) 地方公共団体補助金等		
岐阜県DX推進事業補助金		10,000千円
岐阜県創生事業DA補助金		4,989千円
岐阜県DX推進コンソーシアムリーディンググループ活動助成事業補助金		100千円
岐阜市結核予防費補助金		146千円
合計		227,737千円
令和6年度		146,498千円
令和5年度		174,661千円

4. 人件費 () 内は、「うち退職金金額」

令和7年度	642,572千円	(23,656千円)
令和6年度	629,478千円	(11,255千円)
令和5年度	726,256千円	(86,897千円)

5. 教育研究経費	() 内は、「うち減価償却額」	
令和7年度	562,762千円	(94,001千円)
令和6年度	492,414千円	(97,571千円)
令和5年度	474,551千円	(93,508千円)
6. 管理経費	() 内は、「うち減価償却額」	
令和7年度	198,482千円	(21,365千円)
令和6年度	187,775千円	(21,104千円)
令和5年度	187,071千円	(20,686千円)
7. 土地		
令和7年度		0千円
令和6年度		0千円
令和5年度		0千円
8. 建物		
令和7年度		
新4号館GHP入替工事		17,020千円
華陽記念館1階エアコン更新		649千円
合計		17,669千円
令和6年度		4,496千円
令和5年度		3,624千円
9. 構築物		
令和7年度		0千円
令和6年度		0千円
令和5年度		0千円
10. 教育研究用機器備品		
令和7年度		
メタバース室モーションキャプチャ機器装置		4,345千円
給食管理実習室スチームコンベンションオープン		1,980千円
5号館・沖縄校複合機一式		2,090千円
9号館映像機器入替		924千円
その他		1,654千円
合計		10,582千円
令和6年度		18,412千円
令和5年度		9,910千円

1 1. 管理用機器備品

令和 7 年度	4, 0 2 6 千円
令和 6 年度	7, 6 6 7 千円
令和 5 年度	0 千円

1 2. 図書

令和 7 年度	4 3 8 千円
令和 6 年度	7 6 8 千円
令和 5 年度	1, 0 4 7 千円

1 3. 運用資産

令和 7 年度	2, 4 9 3, 2 1 9 千円
令和 6 年度	2, 6 2 7, 5 1 2 千円
令和 5 年度	2, 7 9 5, 7 4 5 千円

1 4. 正味資産

令和 7 年度	4, 1 0 1, 7 9 3 千円
令和 6 年度	4, 3 1 1, 5 9 5 千円
令和 5 年度	4, 4 6 8, 6 6 9 千円

IV. 学校の業務の適正を確保するための体制（内部システム）の整備及び運用
状況の概要

内部監査規定により内部監査室を設置し、その監査事項を 3 つに分けている。

- ① 業務に関する監査
- ② 会計に係る監査
- ③ その他必要な監査

具体的には外部評議委員会による評価、科学研究費補助金の監査、研究者倫理研修の実施、FD・SDを開催している。

※ 学校会計基準による様式は、私立学校振興助成法で経常費補助金交付の観点からの表示区分となっております。

令和7年度 事業報告書 附属明細書

学校法人名 学校法人 華陽学園

学校法人所在地 岐阜市太郎丸80番地

1. 附属明細書に記載すべき「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しておりません。